

連携強化に向けた取組④(かかりつけ医との連携)

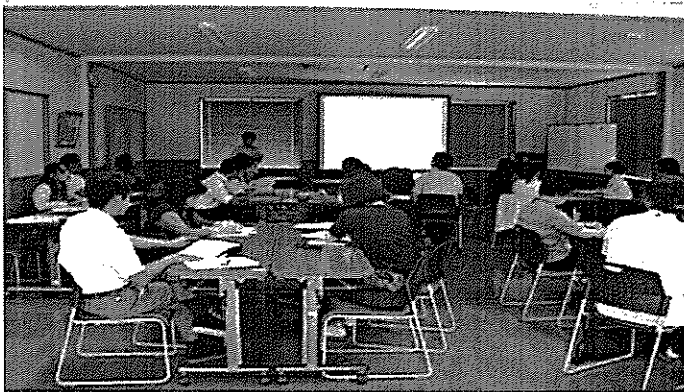
かかりつけ医との連携強化を目的に、上益城郡医師会と地域拠点型認知症疾患医療センター(益城病院)が連携し、かかりつけ医向け研修会を初開催。(H22.9.22) ※地域包括支援センターのスタッフ等も同席。



14

連携強化に向けた取組み⑤(地域レベルの事例検討会)

宇城圏域認知症連携会議



【参加者】

宇城圏域の行政、保健所、医療機関、地域包括支援センター、介護保険事業所等

<設立の経緯>

○認知症疾患医療センターと認知症対応強化型地域包括支援センターが設置されたことをきっかけに、宇城圏域全体の連携を広げるために平成22年7月に設置。

<回数>

○隔月1回開催(第3木曜日)

<内容>

○認知症に関する研修、意見交換など
○基幹型の事例検討会等で得た知識・情報を地域と共有
○地域での認知症に関する課題等を共有

※ 地域での連携体制の構築・強化等を目的として、平成23年度からは、全ての地域拠点型センターにおいて、事例検討会を実施

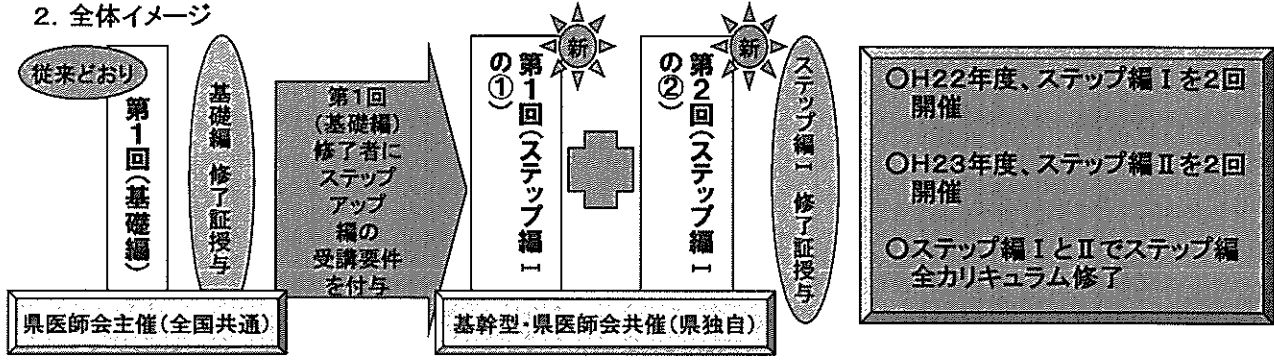
15

熊本県かかりつけ医認知症対応力向上研修

1. 研修内容の充実等(平成22年度～)

- ①認知症に関心の高いかかりつけ医の増加等を踏まえ、平成18年度から実施している「かかりつけ医認知症対応力向上研修」について、熊本県基幹型認知症疾患医療センター(熊本大学医学部附属病院)と連携し、研修内容の充実を図るとともに、かかりつけ医と認知症疾患医療センターの連携を強化する。
- ②研修体系に、新たに、ステップアップ編(2回)(以下「ステップ編」という。)を加える。
- ③ステップ編修了者に、県独自の修了証を発行。また、「熊本県かかりつけ医認知症対応力向上研修修了者」として、県庁ホームページへの掲載を行い、県民への周知を図る。

2. 全体イメージ



【平成22年度研修の概要】

- ①受講要件: かかりつけ医認知症対応力向上研修(基礎編)の修了者(平成18年度以降実施の従来の研修修了者も含む)
- ②日時: (第1回)平成22年10月25日(月) (第2回)平成22年11月29日(月) 19時～21時
- ③会場: 熊本大学医学部附属病院医学教育図書棟3階第1講義室
- ④カリキュラム: 熊本大学策定の独自カリキュラム
- ⑤講師
 (第1回)熊本大学大学院生命科学研究所脳機能病態学 教授 池田 学 (第2回)熊本大学医学部附属病院(神経精神科)助教 橋本 衛

熊本県認知症医療・地域連携専門研修(平成23年度～)

①開催目的

認知症疾患医療センターにおける外来予約待ちの増加等を踏まえると、今後は、センターと地域の専門医が連携して認知症専門医療を提供していくことが必要。このため、認知症の臨床経験を有する医師等を対象に、認知症診療技術の向上や適切な介護との連携方法等を習得する研修を開催し、認知症疾患医療センターとともに、熊本モデルの一翼を担ってもらふ。

②受講要件

認知症疾患の鑑別診断等の専門医療を主たる業務として5年以上の臨床経験を有し、かつ認知症サポート医養成研修を修了した医師

③カリキュラム

基幹型認知症疾患医療センターが策定する独自カリキュラムで実施。

～専門医療編～

- 認知症とは(診断) 池田教授
- 熊本県認知症疾患医療センターの概要 小嶋連携担当者
- 認知症の治療とマネジメント 橋本講師

～地域連携編～

- 認知症地域連携について(熊本大学内で講師調整中)
- 行政説明(熊本県の認知症対策)

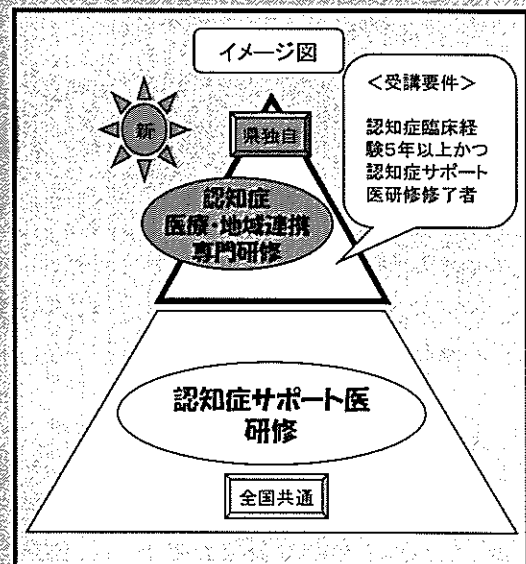
④修了証

県から、知事名の修了証を発行。修了者名簿については、県庁ホームページで公開するなど、広く県民等への周知を行う。

⑤研修修了者の責務

当研修修了者は、認知症疾患医療センターと日頃から連携を密にし、認知症の早期診断、適切な鑑別診断、各地域での医療と介護の連携強化に積極的に努めなければならない。少なくとも次の2点については、必ず行うものとする。

- ①地域拠点型認知症疾患医療センターが開催する事例検討会への参加
- ②県や基幹型センター等が主催する認知症に関する研修会への最低1回/年の参加



認知症疾患医療センターの主な活動状況

①早期診断

→外来件数等の大幅な増加
 (H21.8) (H22.8)
 外来件数 2,508件 → 3,392件
(約1.4倍)

医療相談件数 224件 → 325件
(約1.5倍)

②入院対応(急性期BPSDへの対応等)

(H21.8) (H22.8)
 入院件数 27件 → 47件
(約1.7倍)

③医療と介護の連携強化

→連携担当者の常勤専従化による訪問
 活動(連携体制構築を含む)の充実
 (H21.8) 0件 → (H22.8) 49件

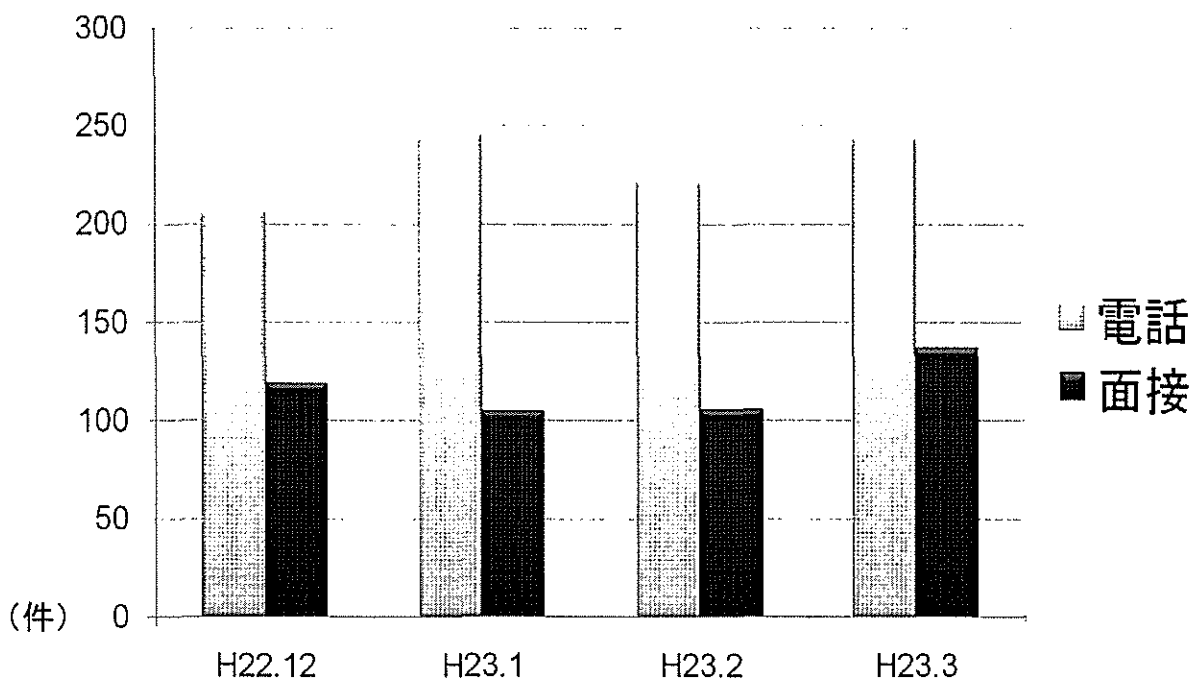
④専門職の認知症医療水準の向上

→基幹型主催の事例検討会(13回)開催
 →県独自カリキュラムによるかかりつけ医
 ステップアップ研修の開催
 →専門職のための公開講座

⑤情報発信

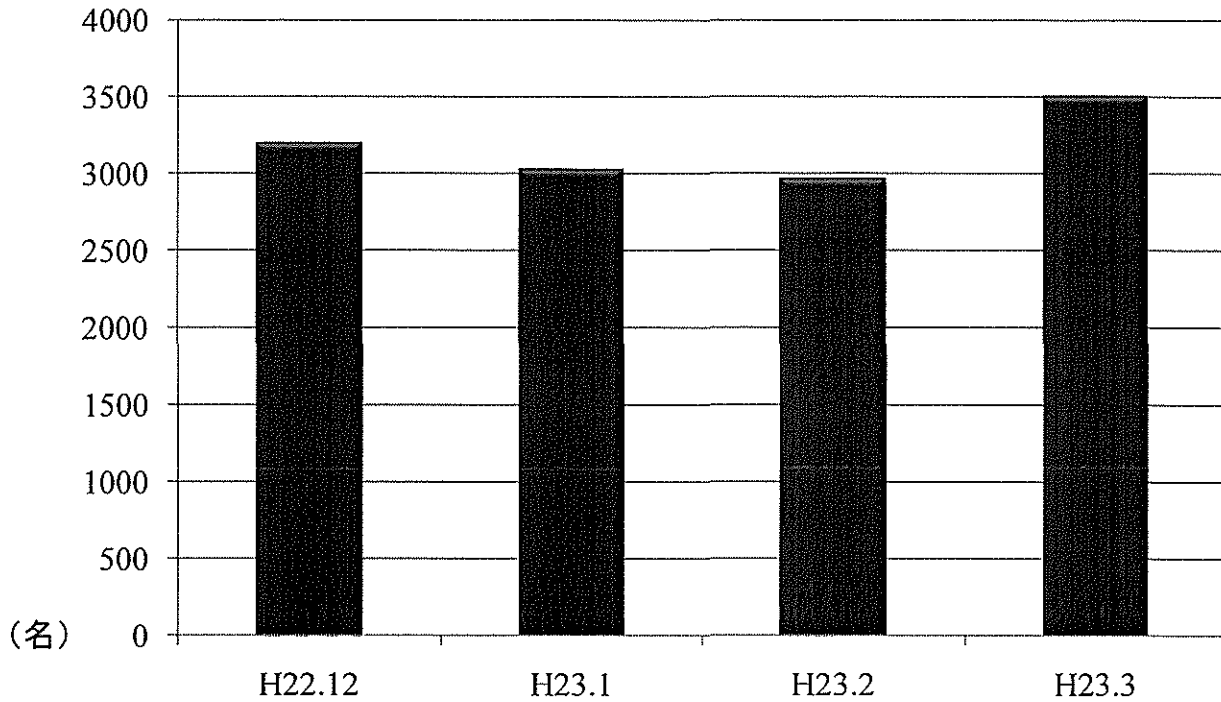
→各種マスコミによる報道
 ・NHKクローズアップ現代(H22.6)
 ・NHKジャーナル(ラジオ)(H22.3)
 ・老年精神医学雑誌(H22.4)
 ・熊本日日新聞掲載(H22.7) 他多数

専門医療相談件数



* 基幹型(1)、地域拠点型(7)認知症疾患医療センター集計

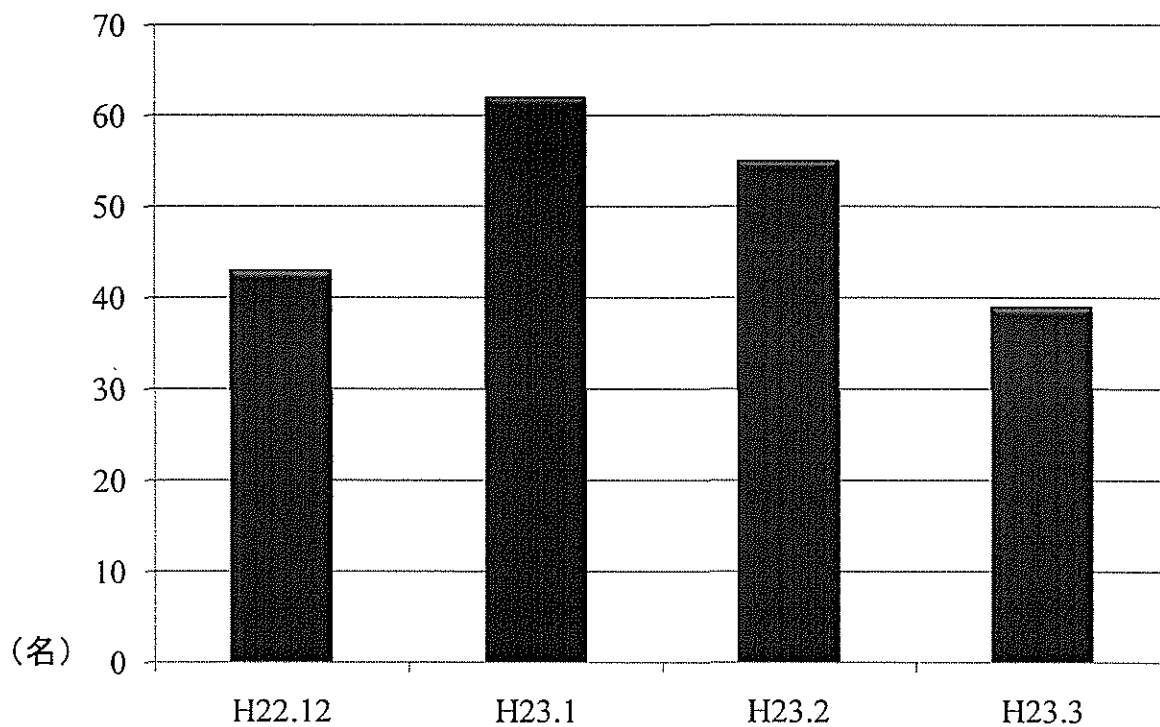
外来患者数



* 基幹型(1)、地域拠点型(7)認知症疾患医療センター集計

20

入院患者数



* 基幹型(1)、地域拠点型(7)認知症疾患医療センター集計

21

熊本モデルの取組みから・・・(私見)

- 単体の認知症疾患医療センター(点)による対応だけを考えるのではなく、センター同士をつなぎ(線)、更に、センター以外も巻き込んだ地域全体、県全体(面)での対応が可能となるような体制構築が必要
- 認知症疾患医療センターの役割として、専門医療の提供は当然ながら、「地域連携」の視点が極めて重要
- 2層構造(基幹型—地域拠点型)から、3層構造(基幹型—地域拠点型・地域の専門医—かかりつけ医)へと発展させることが理想であり目標(新・熊本モデルの構築)

22

その他の取組み (参考資料)

23